

豪華な黄色いシャンデリア – コウヤミズキ –

3月下旬の陶史の森、まだ落葉樹の葉や花の姿がそれほど見られない頃、可憐な黄色い花で森を明るく染める木があります。マンサク科トサミズキ属の落葉低木「コウヤミズキ」です。九州・四国、特に東海地方に多く見られる日本固有種で、樹高は3~5m程度、枝に長さ1cmほどの黄色の花が5~8個ぐらいまとめて垂れ下がり、その姿は豪華なシャンデリアのようです。まだ寒さが残るこの時期によく目立つ黄色い花をこれほどたくさん付けるのは、少しでも多くの虫たちを引きつけることで受粉効率を上げ、子孫を残すため。植物の知恵、自然の奥深さを感じます。

日本のマンサク科トサミズキ属は、コウヤミズキのほかにトサミズキ、ヒュウガミズキ、キリシマミズキなどが自生し、「地名」+「ミズキ」が多くみられます。コウヤミズキの名は、日本の植物学の父と呼ばれ、今春のNHK連続テレビ小説「らんまん」のモデルとなった牧野富太郎博士が高野山の標本に基づいて命名したとされています。

コウヤミズキの花言葉は「優雅」、「伝言」。陶史の森では、安土の道の南側入口近くにコウヤミズキが見られます。冷たさの残る青い空に鮮やかに映える黄色の花が、私たちに春の訪れを告げているようです。ぜひご覧ください。



葉が出る前の枝からぶら下がる
ように咲くコウヤミズキの花

森の 日記

モッコモコの防寒着 – 元気な羊たち – 2月1日(水)

立春を過ぎましたが、陶史の森ではまだまだ最低気温が氷点下になります。写真は小屋を出てえさを食べるヒツジたちです。羊毛をたくさん蓄えたモッコモコの可愛い姿です。この羊毛のおかげで寒い季節を元気に過ごすことができました。今はモッコモコの姿ですが、4月には暑い夏に備えて毛刈りをされたスリムな羊になります。



教室のご案内

3月

●バードウォッチング (要申込 定員10人)

3月26日(日) 午前9時~11時 (雨天中止)

初春の野鳥を観察します。陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。

4月

●バードウォッチング (要申込 定員10人)

4月23日(日) 午前9時~11時 (雨天中止)

春の野鳥を観察します。陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。

●ヒツジの毛刈り (要申込 定員10人)

4月中旬 午前9時~11時

期日は未定です。4月以降に問い合わせください。

※ギフチョウ観察会は、ギフチョウの確保が困難なため中止します。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。